

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

これより6番宮本栄八の一般質問をさせていただきます。

前回は市民病院一本の質問でしたけれども、今回はまたもとの状態というんですか、いつものスタイルというんですか、多くの質問を出しております。第1番目、市民病院問題について、2、武雄市新工業団地について、3、経済対策・雇用対策について、4、教育行政について、5、都市計画・道路行政について、6、環境問題について、7、具約の実行について、8、合併特例債の活用についてであります。多いのですが、ベルが鳴る前に終了したいと思しますので、早速質問に入りたいと思います。

市民病院問題についてです。

市民病院問題については、選挙が行われ、一定の結論が出たということになっております。もう来年の1月末までが市民病院ということで、実際どうなっていくものなのかなというふうなことになるわけですけれども、この間の病院改革が病院問題になったのは、やっぱり説明不足だったということでありまして、それは市長も認めているところであると思います。そこで、前回、市民説明会を1回開催してほしいということをずっと言いました。そしたら、話がずっと途中から説明をしなくてはいけないということは認められたんですけども、次、市民説明会をしてもらいたいと言ったら、いや、各種団体でもう何回もやっているの、わかっておられるというふうな答えだったと思うわけなんですよね。しかし、各種団体の方はわかっておられるけれども、ごく一般の方はまだよくわかっておられないということで、そういう市民説明会を1回取りまとめてしてほしいということを言いました。そしたら、ずっと話が変わって行って、今度、医師会、池友会、市、三者会議をすると。それが専門委員会にかわるものだと。そこにプラス市民ということで、そこで聞けるんじゃないだろうかというような整理になったと思います。しかし、今回の議会の三者会議というか四者会議の開催日程をほかの議員がお尋ねのところ、その三者会議の下に担当者会議ですかね、そういうもう1つ、2つあって、どう内容が違うのかわかりませんが、2つ会議があって、そこで整理されたら、その三者会議というんですか、四者会議が行われるということですので、下の整理がつかないとずっと先延ばしになっていくんじゃないかなというふうにちょっと今度感じたわけなんです。これが月に1回、何月何日何曜日と決めていけば、それまでに下部組織の会議を早く済ませて、そこで持っていくということになるんでしょうけれども、今の話を聞いていますと、下部会議で決着したら本会議というんですか、そういうのがあるということだから、ひょっとすれば1カ月に1回と言いながらも、そこがまとまらんと、2カ月、3カ月先になることもあり得るんじゃないかなというふうに感じるわけなんです。そういうふうになると、またそれとは別に、やっぱり市民説明会みたいなやつを1回したほうがいいんじゃないんだろうかと。しないと、結局市民が最後まで余りよくわからなかったなということになってしまうんじゃないかなというふうに思いますけれども、その辺の市民説明に

ついてですね。それと、その三者会議がもうちょっと具体的にどういうふうな、パネルディスカッションみたいにしてされるのか、その辺についてもお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

○大田副市長〔登壇〕

何度か御答弁申し上げましたけれども、現在協議会の立ち上げに向けて、医師会の代表の方と話し合いを継続中であります。本体の協議会が立ち上がるように今後とも努力していきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

市民への説明については、前の議会でも御説明いたしたとおりでございますが、希望があれば、ぜひ言っていただければ、説明会には出席して、るるお話をしているというところでございます。議員言われるように、市民説明会の開催ということで大々的にやってくれという話でございますが、これにつきましては、三者協議の中で話題に上げたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

またこの話で30分も費やすといけないんですけれども、三者会議がすぐ開かれるんですかね。まだ下話がずっとできないと三者会議ができないような説明のような感じがしたんですけれども、近々に行われるんですかね。そして、その中で説明会の話が近々にできそうなのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

○大田副市長〔登壇〕

先ほど申しましたように、協議会の立ち上げに向けて、今担当者レベルで代表者を出していただいて、話し合いを継続しているところでございます。その立ち上げに向けて、相手の理解が得られるように今後とも努力をしていくつもりでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

ちょっとこれもまた長くなるとあれですけども、三者プラスワンというので会議を開か

れると先ほども質問を言いましたけれども、その会議というのはどういう形式になるんですかね。市民代表が1人入った3プラスワンになるんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

○大田副市長〔登壇〕

何遍も申し上げますように、どういう形で立ち上げるのか、今医師会の代表の方と話し合いをしているところでございます。市からの代表、それから医師会さんからの代表、それから池友会さんからの代表、それから市民病院職員で構成する協議会を立ち上げたいと考えております。

市民代表については、協議会が立ち上がった後どうするのか、市民代表を入れるのか、またはどういう方たちにどういう方法で入っていただくのか、協議会の場で話し合ったらどうかということを担当者の会議の場で話し合ったことはございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

はい、わかりました。そしたら、まだ、もう下話ができないと全体像もわからないということですね。だから、そっちにまず期待するのはちょっと置いておいて、もし知りたければ市のほうに、例えば団体というか、こういう会をしますから来てくださいというふうなことで知るのが一番早いという整理でいいでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

○大田副市長〔登壇〕

説明会の話は、先ほど企画部長が答弁したとおりで理解していただければと思います。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

はい、わかりました。そしたら、できないことをいろいろ言ってもだめですからね、現実可能なことはそういう方法であるということを市民の方に知っていただいて、聞きたい方はそういうふうにして、市の方を招集して聞くというふうなことで整理したいと思います。

次、ちょっとわからないところというですかね、私は、前も言いましたように、説明を十分にして、市長はファンタジーと言いましたけれども、もうちょっと企業債を減らした時点で、資産売却と同額くらいのところで民営化するなり、独法にするなり、そこで決めたほうがいいんじゃないだろうか、持ち出しがなくていいんじゃないだろうかということ

言っておりました。ちょっとそれをファンタジーと言われたもので、私はそういうふうをやったがよかったのじゃないかなと思っています。

そして、もう1点は、医療内容がよくわからんということですね。私とすれば、どっちみち民営化するならば、結局差額ベッドがなくて、個室で高齢者対応という敬愛会、そちらのほうは私は断然よかったと思っておりますし、前に言いましたように、医師の確保だって、結局今度2人ふえて10人ということなんですよね。もともとやめる前は12人いたわけなんですよ。それが13人にふえるかもしれないということだったから、そうむちゃくちゃ人的パワーというですか、そういう部分はなかったんじゃないかなというふうに思っております。

そこで、そのプロポーザルで私が敬愛会がいいなと思ったのは、実際、今の市民病院の入院患者の構造がどうしてもやっぱり高齢者中心になっていますし、国保の加入者が多いということであって、中心は急性期ではないんじゃないかなと。そこの分が確保できるのかなという心配がありました。

そこで、プロポーザルのときには、池友会の方は、自分たちの得意分野は救急だから救急を主に広域的にやって、安定したらその地域の病院のほうに戻ってもらうというふうなことを言われておりました。ただ、残念ながら、武雄市民病院があって、その池友会の病院があれば、武雄市民病院のほうに戻ってもらうということが本当一番いいんでしょうけれども、そっちがなくなるから嬉野にとか、多久にとか、そういうふうに、白石にというふうになるんじゃないかなと私はちょっと考えたわけなんです。しかし、選挙前ぐらいには、蒲池統括監が1次から3次までありますと。1次から3次からすべてやるということは、病院内で急性期をしてもあと長期的な、長期的というよりは出たり入ったりの入院もその同じ病院でできるのかなというふうに思うわけなんですけれども。ただ、そういうことで、1次から3次までできる病院というのが、実際、今の市民病院だって高齢者がある程度、7割方ですかね、おられると思うんですけれども、そしたら、急性期を3割でやれば問題ないと思うんですけれども、そういう急性期を3割ぐらいでやれるものなのかなと。だから、統括監の言われるような病院が135床で、できるのかなというのが私がちょっと確信が持てないんですけれども、その辺についてどうお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

○大田副市長〔登壇〕

プレゼンテーションでは1次から3次までと言われたようなんですけれども、私どもが池友会のほうから聞いておりますのは、1次医療については、地域医療機関と連携してやっていきたいと、基本的に2次医療領域以上も取り組んでいきたいというふうに聞いております。移譲後も135床ですので、135床のベッドの範囲内でこの医療方針に沿ってやっていただけるものと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

私もそういう、1次が全然ないとは思いませんけれども、2次、3次救急というのが実際できるのかなというのをちょっと自分でも調べたりしたんですよ。そしたら、3次をしている近隣の病院というのをインターネットとかで調べますと、近くでは、佐賀県でいえば県立好生館が541床、佐大附属が604床。福岡県のほうで言えば、福岡大学附属が915床、久留米大学附属が1,186床。こっちは長崎のほうで言えば、長崎医療センターって大村ですけども610床、長崎大学附属856床ということである程度、嬉野でも400床はあるわけなんですよ。だから、そのくらいないと、3次医療機関としての役目が果たせないんじゃないかなと思うわけなんですよ。だから、そういうふうな130——行橋でも200くらいあるんですかね、135床でそういう1次から3次までやられている、参考になる病院があるのかどうかをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

よく質問の趣旨がのみ定めなくて申しわけございませんが、私どもの情報収集力不足といえますか、そういうことで、そういうものがあるとはまだ私どもは把握しておりませんが、1つの例として、移譲先の医療法人が運営する病院、新行橋病院、これは240床でございますが、同じような、議員言われるようなことをやっているというふうな話は伺っております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

新行橋病院って。だから、前回も言いましたよね。新行橋病院のパンフレットにどう書いてあるかという、重傷者に対応すべくしていると。そして、あとは地域連携しているということを書いてあるわけだから、ここが言われるような1次も2次も3次もという病院の事例にはならないんじゃないかなというふうに思っています。だから、その辺についても、どんな1次、2次、3次を小っちゃく、部門に限って、脳なら脳だけに限って3次をされるのかなという思いもしますし、その辺も市民にわかるように、135床で1次も2次も3次もして、8階建てでヘリポートつきで24時間365日診ますという、その辺の具体的な計画というのはいつ表明できるんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

○大田副市長〔登壇〕

質問をお聞きしている中で、誤解があるように感じてしょうがないんですけども、私どもが池友会と話している範囲内では、池友会の医療方針としては、1次から3次までも対応できますけれども、2次医療を中心にやっていきたいというふうに伺っております。したがって、1次医療については、開業医の皆さんと連携を図りながらやっていきたいということでございます。それから、3次医療につきましても、できるだけ対応するけれども、近辺の3次医療機関と連携を図りながら対応していきたいと。結果といたしまして、2次医療が中心となりますけれども、1次、3次についても、できるだけ対応していきたいという方針だと私どもは理解しております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

その辺がちょっとよく全体像としてわからないんですよ。そしたら、2次を中心だったら、ヘリコプターまで要るのかなと。だから、その辺の整理というんですか、やっぱり3次を中心にして、頻繁に来るからこそヘリコプターが要るんじゃないかなと思うわけなんですよ。だから、その辺がよくわからないんですよ。だから、もっと具体的に、池友会のプロポーザルの内容とその高齢者対応というのも、そのときは、プロポーザルのときには、高齢者のほうはそうでもないような発言をされているんですよ。だから、もうどっちでもいいから、はっきりどうなんだという実態を早く市民に示していただきたいなというふうに思っています。

ずっと食いついていくと長くなりますので、違うほうに移っていきたいと思います。

次、市長が選挙前に、春から常勤15人体制をします。そして、そのうち、内科医を2名入れるということでありましたので、15人でどこがどう変わって、その内科医2名は呼吸器科なのか何なのか、その辺についてお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

医師の数につきましてはですが、この前の選挙のときに市長が、春にはということで公約として掲げていたということでございます。私ども今、内科医を含めて、医師の確保につきましては努力をいたしているわけでございます。

現時点でまず申し上げますと、常勤医師が10名ということで、宮本議員おっしゃられたとおりでありますけれども、今後、内科医を含めて鋭意努力をいたしております。早い段階で13名体制まで持っていきたいというふうに考えているところであります。

具体的な科目等々につきましては、先生が確定をした段階で調整をさせていただくという

ことで今努力をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

確保しているというか、結局池友会が100人ぐらいの余裕が、お医者さんがあるということの説明だったわけですね。だから、確保じゃなくて、要請をすればいいだけですね、こちらが呼吸器なら呼吸器と何科と何科を派遣してくださいと。そういうふうな形じゃないんですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとおっしゃっている意味が、すみません、よくわかりません。要請も確保も結果的にそれは一緒だというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、要請をされているということですね。それにまだちょっと向こうが追いつかんということですかね。わかりました。そしたら、できるだけ内科医も希望を言って確保していただいたらというふうに思います。

そして、次4番目、指導料についてです。

今武雄市は池友会と、一言で言えば指導料と皆さん言うておりますけれども、運営指導委託料、これが去年8月からだったですか、今度の3月31日まで月額500万円ということで池友会さんのほうに指導料を払っております。また、新年度もこの500万円を池友会さんに指導料を払っていくということであって、20年度、この委託料の500万円内には一部人件費みたいなことも入っているということでありまして、その部分はこのお金から出すのか、人件費と別に立てるのか、これから出してもいいと思うんですけれども、この指導内容、7項目ありますけれども、病院改革とか医師募集の指導とか、そういう委託範囲というのをもう必要はないんじゃないかなと。だから、その部分が500万円のうちの幾らになっていたかわかりませんが、その部分はもう削減して契約すべきではないかなというふうに思いますけれども、この辺についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

御指摘のとおり、昨年8月からいろんな面で指導を受けているということでもあります。

具体的にはI C U室を設置したり、回復期のリハビリの病棟をつくったり、こういった——それから、救急外来につきましても指導等を受けているところでもあります。こういったものにつきましても、新年度におきましても、継続して指導を受けて21年度の病院経営がうまくいくようにということで考えておりますので、さらには看護師等の確保につきましても指導を受けているという状況でありますので、引き続きお願いをしたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

だから、必要な部分は必要でしょうと。範囲が病院改革とか医師募集とかについては、委託の範囲を——清掃委託を頼むときも、委託範囲を縮めないで削減とか値引きはしてもらえないですね。だから、委託範囲を縮めて削減の交渉をしたらどうでしょうかと。ほかの業者にも、委託料の削減は今までもずっといろんな交渉をしてやっているんですね。だから、これもそういうふうにして、委託料の削減交渉をするべきではないかと。ほかの委託についてもそういうふうに行っているんだから、これについてもやるべきではないでしょうかということをおっしゃっていただけますけれども。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

20年度の委託料につきましては、8月から月額500万円を上限に委託契約をしているところであります。20年につきましても、3月になってまいりましたので、精算の時期が近づいてまいりました。したがって、上限額をすべて支払うということではなくて、概算払いによって支払い、精算で幾らかが戻ってくるというような形になろうかと思えます。

それから、21年度ですけれども、現在の実績等々を見ますと、若干の減額ができるような状況になっております。お手元にあるかと思えますけれども、21年度の予算案では、月額400万円ということで、10カ月分4,000万円の予算をお願いしているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

事務長の答弁に補足をいたします。

私は、委託料を含めて基本的にこの手のものは費用対効果だと思うんですね。この400万円、500万円というのは高い、あるいは安い、いろいろあると思います。その上で、今まで、これはプライバシーにかかわる話ですので、つまびらかには申し上げませんが、

助からない命がもう幾つもやっぱり助かっているということについて、私は非常に感謝をしております。あるいは、一般的にこれは治らないであろうと言われたものがきちんと治っていく、そういったことを考えると、私はある意味、これは指導いただく投資として、これは十分に機能を果たしているというふうに認識をしております。これを可決していただいた議会の皆様方に非常に感謝をしております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

結論的には400万円に減るということですので、ある意味よかったかなというふうには思っておりますけれども、大体、でも私から言わせれば、市民病院の指導を受けるとかなんとか、そういうのはもともと考えていなかったわけなんですよね。だから、医者不足で赤字に陥っているから、医者を出してもらえば、そこで黒字になれば問題なかったんじゃないかなというふうに私は思っています。

あとは、市民病院が移転した後の川良の現市民病院ですけれども、今回の議会の話では、新型インフルエンザのための何か施設みたいな病院みたいなことを言われていたんですけれども、病院にできればベッド数がとれるのかなと。だから、そこは病院なのか病院でないのかその辺について、その施設というのはどういうものか、もうちょっとお聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は一言も新型インフルエンザの施設にするといったことを言った記憶がないんですよ。だから、もし言われるのであれば、これは非常に重要な問題ですので、正確に引用をすべきだと思っております。そういった意味で、私は保健所等の指導があつて、新型インフルエンザを収容せしめるところについては、我々要請をされております。そういった意味で、これは医師会とも協議をしながら、あるいはこれ市民病院もそうなんですけれども、協議をしながら考えていく必要があるだろうと。その上で、これは川良の皆さんともよく相談をしなきゃいけないことでもありますけれども、新型インフルエンザの収容の候補の一つとして、今の川良の病院が考えられるのではないかとということを申し上げ、さらに、これは議会の答弁で申し上げましたけれども、中長期的には、これは保健所等の指導、厚生労働省の指導がありますので、新たな病院が受け皿の一つなるのではないかなというふうに思っております。

余り決めつけでそういうことをおっしゃるべきではないと思いますし、今、これも議会の答弁でお答えいたしましたけれども、新行橋病院が新型インフルエンザの受け入れ態勢をしているということで、これはテレビでも放映をされ、そして、これが国、県から非常に高い

評価をいただいているということもあわせて申し述べたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、何かそういう話が出ておったから、そういう内容を聞きたいなと思って聞いただけでありまして、そこを新型インフルエンザ対応にしてくれとかなんとかそういうことではありません。だから、そのインフォメーションを知りたかっただけです。

そして、川良の方が判断するというのも、ちょっと川良も重い荷物を背負わされるんじゃないかなと。また川良が二分して、賛成、反対分かれてなるんじゃないかなというふうなことも心配するんですけども、その辺の地元要望というのは、区長さんを通じての要望みたいな格好になるんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

なぜそういう御指摘になるのかというのは、私は皆目やっぱり理解ができないんですね。私が申し上げているのは、これ再三申し上げておりますけれども、やはり今の武雄市民病院というのは、川良の皆さんたちを中心にしてかわいがっていただいたという歴史があります。そういった意味で、最も密接不可分にかわいがって、そしてお世話になった川良区民の皆様方の意見、要望をまず聞きたいとそういう、ちょっと言葉は妥当かわかりませんが、協議会をつくりたいというふうに申し上げた次第であります。これをもって二分をすると何かまとまらないとかという、これは見解の相違になりますけれども、私はそのことについては全く理解ができないところであります。むしろ、あれを廃墟にしないと、廃墟にさせないということで、私は川良の住民の皆様方、そしてひいては武雄市民の皆様方に喜んでいただくような施設づくりをしなきゃいけない。そのためには、地元の皆さんたちの要望を真摯に承る必要があるというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

そうですね、半分になるかどうかは私の思いというんですかね。だから、それは私の意見として言っただけで、実際なるかどうかはわかりませんが。

ただ、川良の跡地については、もともとプロポーザルのときには、何かあれじゃなかったんですかね、寮とか福祉関係というんですかね、高齢者の施設になるような話ではなかったんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは議会答弁がどういう意味があるかということだと思うんですよね。私どもは、質問に対しては真摯に答えていることでありまして、基本的に私どもが申し上げたいのは、プロポーザルのときに、確かに寮であるとか、老人の皆様方の福祉施設があるというプロポーザルがありました。これに付随して、最も重い意思決定の場というのは、私は議会だというふうに認識をしております。そういった意味で、川良の皆様方の意見を聞きながら、そして池友会が方針も、これすり合わせる必要があると思いますので、その場で決めていこうという話をさせていただいております。そういった意味で、私はさきの選挙のときにもこれは決して、あれは何かもう廃墟にするかということを言われていましたので、いや廃墟にはしませんと。何らかの形で喜んでいただくような施設については、川良の住民の皆さんたちをまず第一に聞きながらしていきたいと重ねて申し上げている次第であります。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、何かその跡をそういうふうにするというのを、私が勝手につくったわけじゃなくて、そういうふうなことも聞いたから、そういうふうになるんじゃないかなと私自身も思っていたし、市民の方も多くそう思っていたんじゃないのかなというふうに思っています。だから、そこについては、私が勝手につくって言っているわけでもないですし、そういう話を一つ一つ私は聞きながら、ああ、そうなのかな、そうなのかなと思ってしているだけの話であります。

そしたら、一応病院問題は——ああ、そうですね、病院の単価の話なんですよね。3次救急になれば、5万円程度は通常だというふうなことも言われていますし、この辺の2次医療の各病院施設を見ると3万円程度なんですよね。だから、前回もちょっと言いましたけども、8階建てでヘリコプターつきだったら、1日の入院平均単価は5万円程度必要ではないかなと。そういうふうになれば、ちょっと高齢者対応の施設の135床ではペイしないんじゃないかなというふうに思いますけれども、その辺についてもし御示唆があればお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

診療報酬についての御質問ですけれども、ビルの高さでありますとか、ヘリポートがあるとかないとか、そういうことで診療報酬が決まるわけではないと。（笑い声）

〔6番「いや、決まらん——ペイできる、ペイできないか」〕

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○古賀市民病院事務長（続）

どういう医療を施したのか、それによっては診療報酬の基準がございますので、それによって病院は収入を得るというということになります。（「そうだ」「よし」と呼ぶ者あり）

〔6番「ペイできないんじゃないだろうかって言いよっと」〕

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御心配なきように申し上げますと、これ病院は単独で医院のように経営するわけではありません。あくまでも池友会のグループの一つとしてなるわけでありますので、そういった意味からすると、武雄市の財政規模よりも大きい予算規模が池友会にあります。その中でのワン・オブ・ゼムとしての経営になりますので、議員の心配はもうここまでにしていただきたいと、このように思っております。（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、そが言え、公立病院でも国が持っているから、国全部の財産からすれば何も大したことはないわけであって、それを財務整理するからこういうふうになっているわけの話でありますので、ちょっとそういう、これ以上聞いても答えは出ないと思いますので、自分自身まだ計算というんですかね、自分なりの計算をしてみたいと思います。

一応、病院問題はこれで終わります。

次に、第2番目、武雄新工業団地についてです。

これについては、これまで旧武雄市の時代からと思いますけれども、新たな工業団地ということで、適地調査とかをしました。適地調査をして、その結果を教えてくれと行って、もうそのときは営業部はあったんですかね、何回も聞きに行ったら、ちょっと土地高騰を呼ぶもしれんから適地については発表はできんということで、ああ、そうですかというふうなことを言っておりました。最終段階ぐらいになったら公表するからというようなことも言っておられました。それをしている間に、今度新産業だったんですかね、広域で取り組めば国が補助するとかそういうことで、伊万里市さんと一緒に山内とか若木とか、そちらの方面に工業団地をするというような話もありました。だから、そっちでいくのかなど。しかし、ちょっと私は、前の県の工業団地、若木の工業団地が1個売れないということで、私が議員になってからずっと売れていないもので、完売できていないもので、ずっと自分なりに研究をしていたわけですね。そしたら、全国工業団地とかインターネットで引けば、やはりインター

からすぐそばにあるとか、価格が3万円ぐらいとか、売れるところは大体そういうふうな条件になっているかなということ、若木の第2工業団地は、ここで言ったらいかんですけれども、私が調べる中では余りよくないんじゃないかなということは営業部長にずっと言っておりました。

それで、今回北方のほうで、インターにも近いということで、私の第1の問題からすればクリアしているかなというふうに思っています。しかし、私が考えておったのは、もっと平坦地というんですか、今佐賀のクレオパークですか、それも平坦地だし、鹿島のほうの大村方ですか、あそこも平坦地にあるんですよね。だから、もう今から山手のほうじゃなくて、平坦地のほうが売れやすいんじゃないかなと私は思っておったわけなんですよ。しかし、諸事情でそこになったというふうに思いますけれども、その辺の、まだこれはひょっとして売れない場合、そのときつかった当時の議員とか執行部がどこまでどう考えたのかというのは問われるところもあって、私たちが工業用水が使われないのも、その当時使えないんじゃないかなという方も自民党の方にもおられたということで、やっぱり1回点検をしておく必要があるんじゃないかなというふうに思います。

そこで、今度の場所選定の過程と理由についてお教え願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

過去の経過については、先ほど宮本議員のほうからるるかいつまんで説明されましたので、現在の新産業集積エリアについての場所選定の経過について少し御説明を申し上げます。

19年9月の県議会におきましての県知事発言で、市町との共同開発による工業団地の制度の導入についてあったわけでございます。その議会終了後の10月に県の企業立地課による自治体説明会が開催をされ、この段階において選定条件が示されました。この選定条件につきましては、県内の地域バランス、それと場所につきましては立地条件、これはもう全体で20ヘクタール以上の用地ほか交通アクセスなど、それと迅速な開発の可能性ということで示されたわけでございます。この段階におきまして、市としましては、先ほど宮本議員御質問のところで説明されましたように、伊万里市との協議を行いまして、市境での造成というのについて県に合い議をしたわけでございますけれども、立地条件の関係で、どうしてもそう不適當だろうということになりまして、その後、3地区について案を出して、県と協議をしてみたわけでございます。翌月の11月に、この3地区を市内において県と合同で話し合った結果、先ほど議員申されましたように、当北方町の朝日町境の宮裾地区が一番インターアクセス等についてもよい場所でありまして、また企業のほうが求めている場所でもあるということで、ここに決定をして申請をし、現在に至っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

あと残りの2地区は、ちょっと具体的に場所は言わなくてもいいと思うんですけども、そこも次とかそういうのはあるのかなというふうに思いますけれども、もし教えられればその地区と、先ほど言いました平たん地のほうが、今山手よりも平たん地が売れると思うんですけども、平たん地にその北方方面で確保すること——北方方面じゃなくて橘でもいいんですけども、朝日でもいいんですけども、確保する場所はなかったんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

地区選定については、国道498号沿いということで選定をして協議をしたわけでございます。

それとあわせてですけども、議員先ほどおっしゃいますとおり、交通の利便性とかいう問題で平たん地をおっしゃいますけれども、平たん地になればほとんどが農地であります。今回の集積エリアの一番のポイントというのは、迅速な開発区の可能性ということでありまして、なるだけ開発条件の許可条件が少ないところの選定ということでありまして、例えば、農地でありますと4ヘクタール以上になれば、国、農林水産省に協議をし、当然この許可が出るまでは最低1年ぐらいはかかるというふうなスピードの面で劣るということもあって、大体今回の3地区についても山林主体の地域を選定したということでございます。（380ページで訂正）

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

時間的な問題ということですね。そういうふうになれば、我々がもうちょっと早くから選定というんですか、我々自身の準備が不足していたのかなというふうにも思います。

そこで、私自身も含めて、もっといろんなところを考えてやはりしておかんやったのがいかんやったかなと、自分自身の反省も含めて考えております。

それで、次は価格ですけども、30億円程度かかると思うんですけども、単純計算して割っていいのかどうなのかわかりませんが、前のインターネットで3万円程度ぐらいでないと売れないんじゃないかなと思いますけれども、今大体ざっと計算して、完成の坪価格はどの程度になれるでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

分譲単価の決定につきましては、造成費用などの諸費用、並びに議員おっしゃるとおり他地区とのバランスというものを勘案して決定をするわけでございますけれども、現在議案を上げしています平成21年度での予算案に示していますとおり、今後実施設計等で費用を算定します。議員おっしゃるとおり、概算の概算というのはそれぐらいかなというふうに思っていますけれども、最終段階においてどれぐらいの費用がかかるかというのを決定した上で、価格については決定をしたいということで考えておるところです。

〔29番「議長、議事進行について」〕

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）

前から言うように、なるだけ人の発言中は話したくという気でおるのは事実ですよ。しかし、今みたいな言い方で、今田んぼをとれないのは、時間的だけじゃないんですね。インター近くで探して、適地がない、30町ほどはない。ないですよ。しかし、田んぼをすれば、時間かかると今部長おっしゃったんですね。そしたら、時間がないからあそこに決めたんだねと決めつけなんです。それにちゃんと執行部は答弁しなければ、あそこは時間的に長くかけても一番いい場所だったですね、インターから一番近いし。なぜかといいますと、私地元で一番知っていますけれども、いいですか、今九州のへそは鳥栖だというんでしょう。鳥栖から20分の距離、探してみても、鳥栖はインターおりて20分の距離ないんですよ。だから、20分来れば北方インターまで来ますよと、だからインター近く、この時間差は物すごく気にするわけですね。先ほど執行部も、宮本議員も私初めて一致しましたけれども、若木は遠過ぎるねとおっしゃったんですね。そのとおりなんです。だから、一番いいところの一番いい場所で、時間かけても私はあそこが一番いいと思うんですよ。それは、さも田んぼが時間がかかるからしなかったように言われたのに対して、執行部はちゃんと答えてくださいよ。議事進行で。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

ただいまの議事進行につきまして、執行部から再度答弁をさせます。樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私から訂正をいたします。

私もこの選定については関与をしております。基本的に、先ほどあった時間の問題、そして用地確保の問題、これは価格もそうであります。それと、何よりも場所が近いということでもあります。そういった意味から、与えられる選択肢の中で、今回の宮裾の工業団地はベストだというふうに思っておりますので、自信を持って造成に当たってまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

私はちょっと聞いたのを言っただけです。ね。（「違う」と呼ぶ者あり）いや、時間としか言われんやっと思ったんですけども。

わかりました。そして、その3万円かどうかはちょっと計算してみないとわからないけれども、まあ大体その範囲におさまりそうだなというふうに言われた意味なのか、言われない意味なのか、もっとはっきり聞いておかないといろいろなりますので、もう一度お聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

再答弁せんでいいように答弁をお願いします。

○伊藤営業部理事〔登壇〕

議員おっしゃるとおり、3万円でおさまるとかおさまらないとかいう価格の答弁をしたつもりはございません。価格を決定するに当たっては、造成費用並びに他地区との、要は価格のバランス、この2つの要素を持って決定をしたいわけでございますけれども、まずもってその造成費用の確定ができていない段階ですので、現段階では考えていないということで答弁したつもりでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そうですね、それもしてみらんとわからんということになるんですかね。

そしたら、あとこういう不況ですので、売れ残ったときのことについてもちょっと質問をよく受けますので、売れ残ったときの対応というんですかね、それも知った上でやらなくてはいけないと思いますので、その辺についてはどうお考えかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

景気には波があります。今は底値かもしれませんので、この回復に合わせて今からいろんなことをやって、まず売れる努力をしたいと思いますので、宮本議員を初め議会の皆様方の格段の御協力をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

売れる努力はもう当然しなくてははいけませんけれども、一応事を始めるに当たっては、

やっぱりリスクの説明もするべきではないかなと、今の世の中そういうふうになっているんじゃないかなというふうには思っています。

○議長（杉原豊喜君）

ここで議事の都合上、1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	11時58分
再	開	13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

午前中に引き続き質問を続けていきます。

次は、経済、雇用対策です。今回の不況というですかね、その対策として、一応総合窓口を営業部に設けるということで、具体的な金額的なことは今までなかったんですけども、今回、国からの交付金とかそういうのが来るようになって、財政的にも支援をするという形になったと思います。そこで、4番の松尾議員の質問の中にもありましたけれども、国のほうから3億3,000万円、補正の部分に来ましたと。補正前には204億円だったんですけども、3億円来たんですけども、結局トータルは204億円ということで8,000万円の差しかなかったと。だから、本来言えば、補正前が204億円であれば、それに3億円を足された分で、総額が大きくなって経済波及効果があるんじゃないだろうか。私もそういうふうに思っておりました。

一応、結局、交付金が3億円来た分が、市債——市の借金とか繰入金を減らしたということで、市の財政としては助かった格好になっているんですけども、今は市の財政を助けるよりも仕事をふやすということですかね、そっちのほうに行ったがよかったかなと思います。ただ、もうここになってから、これをどうのこうの動かせというのは、ちょっと難しいと思いますので、21年の当初予算というですかね、そちらのほうでかさ上げをしていただいたらいいんじゃないかなというふうにも思っておりました。しかし、21年を見れば、昨年度は当初予算は195億円だったんですけども、それも今回の当初予算では185億円ということで10億円減っておりますので、ちょっと20年度補正でもかさ上げできていないし、21年度のほうの新年度予算でもかさ上げができていないと。当然、この後、国から来る分はかさ上げになるとは思いますけれども、その辺でもともと国から来る以外の部分で前年並みというですかね、結局20年度が190億円だから、その辺で上積みができなかったもんかについてお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

今回の国の経済対策に対応した予算編成と当初予算の件でございますけれども、これは4番議員にお答えしたとおりで、先ほど議員おっしゃったとおりでございます。特に21年度も国の経済対策に対応した予算も増額という形で当初予算に組み込ませていただいております。今後、さらに国の経済対策の対応を含めて本市の実情に即した効果的な独自事業の実施も視野に入れながら、今後とも対応していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

そういうことで、本市の事情を勘案しながらふやしていくということでよろしく願います。

次に、雇用対策、あとどういふのがあのかなと。予算総額をふやすという方法と、あと具体的にどういふのがあのかなというふうに考えたところ、市の職員さんは結構残業が多いというふうなこともお聞きしておりますので、その辺の人的な臨時職員なり、パートになるのかわかりませんが、その辺の市の職員さんの残業を減らしての仕事をつくるということではできないかについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

多分、市役所型ワークシェアリングというような視点での御質問かと思っておりますけれども、市の業務につきましては通常の時間外勤務に係る業務内容につきましては、特に専門性とか連続性があるものがほとんどでございますので、他社への仕事の配分としては難しいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

そこを何とか、例えば観光関係といえは作業とかなんともあると思っておりますので、その辺についてはもうちょっと研究をしていただきたいと思っております。すべてができないものばかりじゃないんじゃないかというふうに思っています。

そして、もう1つ、ちょっと私が提案というですか、3つ目は、新聞によりますと、小城市のほうでは市が100人の雇用をつくり出す予定ということで書いてありまして、武雄市のほうはどういふふうになっておりますかというのをお尋ねしましたところ、一応50名ですと。その50名はどういふふうにして50名になったんですかというのをお尋ねしますと、何かそういう雇用創出の仕事はないかというのを各課にお尋ねして、そこから上がってきたものの集計が50人程度だというふうなことを報告を受けました。

以前、不況対策のときに一番人気があったのは、小学校のパソコン——コンピューターの補助要員というですかね、まあ竹切りもあったんですけども、結構それが評判がよかったというですかね、役立ったというようなことを言われたんですけども、そういう部分は今回出てきているのか、ちょっとわからないんですけども。

それで、思ったのは、各課に何かありませんかじゃなくて、企画のほうでこういうのをしたらどうか、こういうのをしたらどうか、こういうのをしたらどうかというのをあらかじめ考えて、計画的につくるというですかね、そういうことができないかということで、下から上がってくるじゃなくて、企画のほうで計画的にこういうのをしたらどうかと、市民の要望を聞いたら、こういうのがありますよと、そういうような格好にできないかについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

今回、国の制度によります緊急雇用の創出事業でございますけれども、そのうちに一応52名を今考えております。それで、2月ぐらいに、ある新聞のほうに、小城市のほうに118名ですか、その時点ではまだ県のヒアリングの前で、まだ予定の段階で載せております。最終的に52人になったということで、日数については、3カ月もあれば6カ月もあって、1年もあってということで、事業費については大体県平均にいております。そういうことで、この事業の取り方でございますが、これについて昨年12月24日に関係者の会議をした折に、こういう制度ができるということで各課のほうで調整をしてもらって、それを一度、農林商工のほうでまとめて県のほうに提出して、結果的に52人になったということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

日々の業務につきましては、担当課が一番熟知いたしております。そういうことから、企画のほうでも、こういう事業はないかという示唆は与えますが、一番熟知している各課から上がってくるのが一番ボトムアップとしていいんじゃないかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

熟知してあると思いますけれども、やっぱり雇用創出だから、単に今ある仕事の整理じゃないので、そこは雇用創出という観点で企画的にやっていただけたらなというふうに思います。

そしたら、ちなみに、以前の不況のときに人気のあったパソコン補助というですかね、そ

ういうのは今回出してありますか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

今回の対象の事業につきましてですが、パソコン関係については、今回はございません。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

今後、もし——多分評判がよかったと思うんですね。町でもパソコンを教えに行ったとか、教えた人もそういうふうに言っていたんですけども、教えられた方も何かよかったということですので、もう一回その辺を教育委員会で、もしよかったら——パソコンも今自由に使えるように新しく入れかえてあるわけだからですね。それを有効活用して、ここを契機に使えるようになるようにしていただければと思います。

次に、教育行政についてです。

これは学校改築の件です。前回の一般質問では数人の方が小学校の耐震関係で改築計画を示してほしいということをおっしゃったと思います。そのときには、市長の指示というですかね、認可を受けて一斉に改築計画を出すから、今は待ってくれということでありました。そこで、そういうことかなというふうに思っていたんですけども、今回補正の件でそういうふうに一斉に出すよりも、補正のほうで経済対策をしたほうが良いと、一歩でも早く設計に入ったほうが良いということでおっしゃったと思いますけれども、そこで武雄小学校とか武雄中学校の調査費ですかね、設計費が出ていたと思うわけです。武雄小学校、武雄中学校の改築はわかるんですけども、前回のお話ではあらかじめ取りまとめて出すということだから、耐震的にどこが悪いじゃなくて、ここ数年間の計画が提示できれば提示していただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

平成21年度当初予算と20年度の3月の今度の補正で、21年度の基本設計、実施設計を計上させていただいています。その実施設計に基づいた工事を22年度、23年度行いまして、その後については、まだ今の段階でちょっと事業計画というものについてはつくり得ていないというのが正直なところであります。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

とりあえず22年、23年度を計画しているということですね。22年度、23年度というのは、

武雄小学校の校舎と武雄中学校の校舎なんですかね。ほかにもあるんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

武雄小学校におきましては管理棟部門、武雄中学校につきましては校舎ということで今準備をさせていただいています。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、まだ体育館等は計画の中に入っていないということですね。はい、わかりました。

そういうことですが、できるだけ計画は早く出してほしいなということを考えています。それは何でかという、先ほどの予算総額にかかわってくるのかなと思うわけなんですよね。結局、20年度は19億5,000万円、21年度が18億5,000万円となっているところの主な原因というんですかね、その中の原因の大きなところに学校改築が西川登小学校だけになっているということも聞きますので、学校改築計画が予算総額に影響してくるというんですかね、そういうようなところもあるんじゃないかなと。そういうことになれば、結局、予算総額をやせふやせと言ったって、つくるものが計画的にならないとつukれないわけですから、何年か先が出ていれば、とりあえずいいと思いますけれども、できるだけその隙間がないようにしていただきたいと思います。

次は、教育問題の2番目です。

これはタウンミーティングの開催です。以前より中高一貫絡みの、上田議員のところにもありましたけれども、中高一貫が1校しかない。中高一貫を普通校と考えるか、普通校でないかというところもあると思いますけれども、その辺で私はそう思っているけど、皆さんどう思っているのかなというのがあって、以前からタウンミーティングというのをしてもらいたいということを述べておりました。結局、私も子供の側から教育を考える会の方が言われるように、学校を2つに分けて、普通校と中高一貫と2校あると。2校あれば、4クラス、4クラスになる可能性もあるというふうに思っておりました。そこで教育長は上田議員への答えの中で、西部学区の高校のバランスが悪いというふうに言われましたけれども、どういうふうにバランスが悪いか、ちょっと聞きたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

バランスが悪いというとらえ方はちょっと誤解を与えやすいかと思います。西部学区が3

地区に分かれて考えてあると。その生徒数をもとに高校を検討、計画してあるというのを、その際に、その3地区に分かれているけれども、武雄、杵島地区は実際に生徒の動きはそうじゃなくて、嬉野地区、鹿島地区に行っている生徒のほうが多かったりすると、そういう意味でのバランスでありまして、高校を計画するときにそういう方向での計画が望ましいのではないかという意味でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

ちょっと私もその辺の理解が、はっきりわからないんですけども、とりあえず武雄市に高校が2つあるということについては賛成ということで間違いないですね。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

就任時点で既にこの中高一貫校の設置が決まって進んでいたわけでありまして、この段階で武雄に2校あった方がいいかという判断は、ちょっと私自身できかねるかと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

その時点で……。今の時点は違うという意味なんですかね。

何せ、ほかの伊万里とか牛津ですかね、結局トップというか、町全体が意見を合わせて申し入れているというのがやっぱりパワーになったと思うわけなんですよ。そういうことで、そのために、ある程度皆さんで話し合いをせんといかんと思うんですよ。そういうことで、それも含めて、前も前向きに検討するということがあったんですけども、ちょっと以前から言っている教育タウンミーティングを開催してもらえないかについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

確認させていただいてお話ししたいと思います、既に先ほどの、今の時点で2校どうかという判断は意味がないのではないかという意味です。

それから、全市的な意見をというところで、きのう上田議員の質問のときにお答えしたんですけども、県の準備室と話しますときにも、新聞の報道では、地元の熱意によって云々という書き方をされていると、武雄市は熱意がないように見えるじゃないかということですが、そうじゃないんだということは伝えてきております。

それから、今の最後の御質問ですけども、まず教育委員会が見えないんじゃないかと。

何をやっているのか見えないんじゃないかということで、今年度は2月16日よりホームページを開きまして御存じかと思います。あるいは評価等につきましても御提示できるように進めているというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

ホームページを立ち上げて情報を発信しているということですね。

私が言う県が行っていたタウンミーティング的なものはできないかについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

検討中というのが本音でございます。まず、公民館等を含めまして、教育委員会の仕事を御理解いただくと。そして、極力現場に出向いて、担当者なり会場なり、いろんな方の御意見、お考え等は聞いているわけでありまして、今の段階では具体的にはその計画はしておりません。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

できれば意見を交換して、そうばかりではない意見もあるかもしれないと思うんですよね。いや、私が考える中高一貫を二手に分けて普通校に分ける必要はないんじゃないかなと言う人もおるんじゃないかなと、そういうことも言われたりもするもので、まずは話し合いとか、そういうのをですね。それだけじゃないと思うんですけどね、武雄小学校と御船が丘小学校の校区の見直しとか、いろいろ課題はあると思うんですけどね。今、スポーツをするにしても親が送り迎えをせんところはスポーツをしにくいとか、いろいろ課題があるから、そういうのをみんな寄って話し合ったらいいんじゃないかなというふうにも思っています。前向きに検討してください。よろしくお願いします。

次に、5番目の都市計画道路行政についてです。

これも以前に申ししておりましたが、武雄小学校が今度改築になるんですけれども、その導入路についてです。それで、私は前面のほうは厳しいから、後ろから入られるような確保はできないだろうかというふうに言っておりました。そのとき、部長の説明では前面の道路は県道だからというふうなことを言われましたけれども、今度市道に編入するということですので、市道になればやられるのか、その辺についてお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員おっしゃるとおり、確かに県道武雄伊万里線につきましては、4月から市道という形になります。ただ、これが市道になったからといって、あそこは確かに都市計画道路の計画はありますが、今現在、整備計画としては持っていません。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

では、ちょっと前面の道路改良は無理と。そしたら、私が言っている後ろの部分の部分改良についてはどうですかね。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

小学校の東側の道路、これは円応寺線、あと裏側のほうが六ノ角五ノ角線ということで2本道路が走っているわけですが、ここについても今現在、整備計画としてはございません。ただ、用地確保等で地元協力が得られれば、離合場所の設置等での局部改良というのは考えられるというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

できることをして、局部改良でもして、結局工事車両が入ってくると——どちらから入ってくるのかよくわかりませんが、昼、作業をすれば、出るときは一方通行で出ていくわけだから、その辺もうまくいくように考えていただきたいと思います。

もう1点は、そういうふうに道路ができないところもあれば、今度は北方中央線のように、道路ができていのに周りが開発できないという問題があります。そこで、せっかくいい道路ができておりますので、早く宅地化なりをしたほうがいいと思います。それも以前から言っておりますけれども、都市計画区域の網をかぶせて農地転用を図るということですが、それもちょっと早くしてもらわないと困るなど。それをするとされている途中に、まだ県の準都市計画区域を先に設定するとか、まだもう1段、段がふえたような格好になっておりますので、そこは同時にしたり、何か早くする方法がないかについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

北方中央線、あの一帯は今現在、準都市計画区域の指定の準備をしているというところで、指定は県のほうで7月を予定されております。市としましても、あの一帯は確かに北方

町が以前からまちづくりの大きな方針として開発を計画されておった地区ですから、市としても、準都市計画区域の指定後、今、都市計画の見直しをしておりますので、その見直し後、区域の設定、あるいは用途地域の設定、こういうところを検討して、将来的には開発できるような地区にしたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、どちらにしろ、速やかにしてもらわないと、きれいなうちに建った方が土地を買ったり売ったりする人もいいんじゃないかなというふうに思いますので、早期の都市計画区域の設定をお願いしたいと思います。

続いて環境問題についてです。

環境問題については、ちょっと市民の方からごみ袋広告のことについて電話がありまして、そのごみ袋広告に市の指定業者というのですかね、結局、ごみとか資源を頼んでいる業者に広告をさせるぐらいならば、委託料を減らしてもらえと。そして、その広告に違う人を載せたほうがいいんじゃないだろうかというようなことを言われましたもので、ちょっとそれはそれで努力してもらわないといけないんですけども、ごみ袋の費用を広告で減らしているというならば、ごみ袋自体は幾らで買っているのかということも言われましたもので、ちょっと今度調べましたところ、同一規模の伊万里市さんの袋というのは——武雄市も高くはないんですよ。武雄市も普通ぐらいなんですけれども、武雄市の場合は20リットル5円36銭ですけれども、伊万里市は2円90銭。そして、35リットル8円95銭。伊万里市には35リットルはありませんけれども、40リットルで6円92銭ということで袋代が安くなっておりますので、広告もですけれども、広告をとろうとしているまず袋代の節減について努力してもらいたいと思いますけれども、その辺どうでしょうか。

それとついでに、もう時間もありませんので、あとプラスチック容器包装が今、大分定着してきているかなというふうに思っています。それで、以前から言っておりますけれども、プラスチック容器包装を集めれば、結局手出しのほうが多くなると。だから、資源循環のためには必要というならば、その分をまた経費節減をするために、紙製容器包装も同時に力を入れて収集してはどうかと言いましたけれども、そのごみ袋作製費と紙製容器包装の回収についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

ごみ袋の広告の件ですけど、この広告につきましては募集要領を決めて、公募という形、ネットオークションで参加をしてもらったと。その中で、今議員、特定の業者と言われるよ

うですけど、その業者が一番高い値段で落札されたということでございます。

それと紙袋のリサイクルの件ですけど、これにつきましては、今、市報等でPRを努めておりますので、おいおい紙リサイクルは普及していくものというふうに考えております。

〔6番「袋の作製費」〕

袋につきましては、確かに伊万里市さんと比べたらうちのほうが少し高いですけど、これは伊万里市さんのほうは厚みが0.03で、うちの場合は破れにくいようにということで0.04という厚さの違いもございますので、一概にうちが高いという形じゃないと思います。ただ、よその地区、近隣の地区と比べましたけど、うちよりも安いのが伊万里市さんだけで、あとはうちよりも全部高いという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

広告をとるぐらいだったら、一番高くはなくても、袋は薄いほうが環境負荷は少ないんですよね。スーパーの袋だってミクロンを下げていますよね。だから、伊万里市さんが破れているかどうかを確認して、破れていなかったら、そりゃ、ミクロンを下げて金額を下げるようにしないと、本末転倒のような感じも思いますので、そこも研究をしていただきたいと思っています。

以上で質問を終わります。どうも。